

8 三重県下の伝統弓引き行事

日本の弓矢は、狩猟の道具や武器としてだけでなく、その発達と共に払われて来た注意が、世界に比類無い弓を作り出し、信仰の対象となり、神秘的になり、霊器としても取り扱われるようになりました。また神格化され、神社等で祭器として国家平安・健康・五穀豊穡・大漁と海の安全等を祈る媒体としても伝えられてきました。

この結果、今も各地で、その多くが年の初めを中心に、豊年・豊作や大漁を願い、海上や地区の安全を祈願、悪霊や鬼を退治する等の弓引き行事が残されています。

三重県弓道連盟とは直接には係りはありませんが、連盟史の発刊にあたり「弓取るもの」の関心として、県内各地の伝統弓引き行事について調べました。

19年末の時点での調査の結果は表の通りで、予想以上に多くの地区で行われていました。一年に一回の行事なので見学出来たのは未だ30ヶ所程ですが、その内容は実に様々で、的だけでも大きさ(大は2m～小は10cm 位迄)、書かれた 印や字(二重丸・三重丸、中白・中黒、無地的、太陽と星、鬼の字・十字、鬼の絵等)、素材(木・竹・段ボール等)、取付け方(周囲を若木や若竹、あるいは魚の干物を飾る、前の土地に 7 畝半を置く、的の下地が発泡スチロールでその中にお菓子や干物が仕込まれ終わると取り合いをする等)、距離(最長70m～最短5m 位迄、谷を越えたり、家を越えたり、中てないように射る所もある)等変化に富み、服装や独特の仕草が加わり、地区の意気込みが伝わってきます。

この表以外にも行事が行われている神社や地区が有ると思われれます。又夫々の行事の故事来歴、内容について調べていませんが、これ等については、今後機会が有れば調べてみたいものです。また地域的にはかなり偏りが見られ、北勢地域には少なく、鳥羽・南伊勢地域で多く行われています。これは平家の落人が住み着いた竈の集落が幾つか有り、伝統が守られている事。武運の神を祀る八幡神社が多くある事。漁業が盛んで海の危険性は高く、漁獲の変動も大きい事と関連が有ると思われれます。

どの行事も、人口減により行事の存続が危ぶまれており、開催日や条件の変更、規模の縮小等で乗り切ろうとしていますが、それでも取り止めた処も有ります。長年続いた伝統行事はこれからも続けていって欲しいものです。

(表 - 1) 市町別所在地区数

市町名	桑名市	東員町	津市	伊賀市	名張市	大台町	伊勢市	鳥羽市
数	1	1	4	2	2	1	5	8

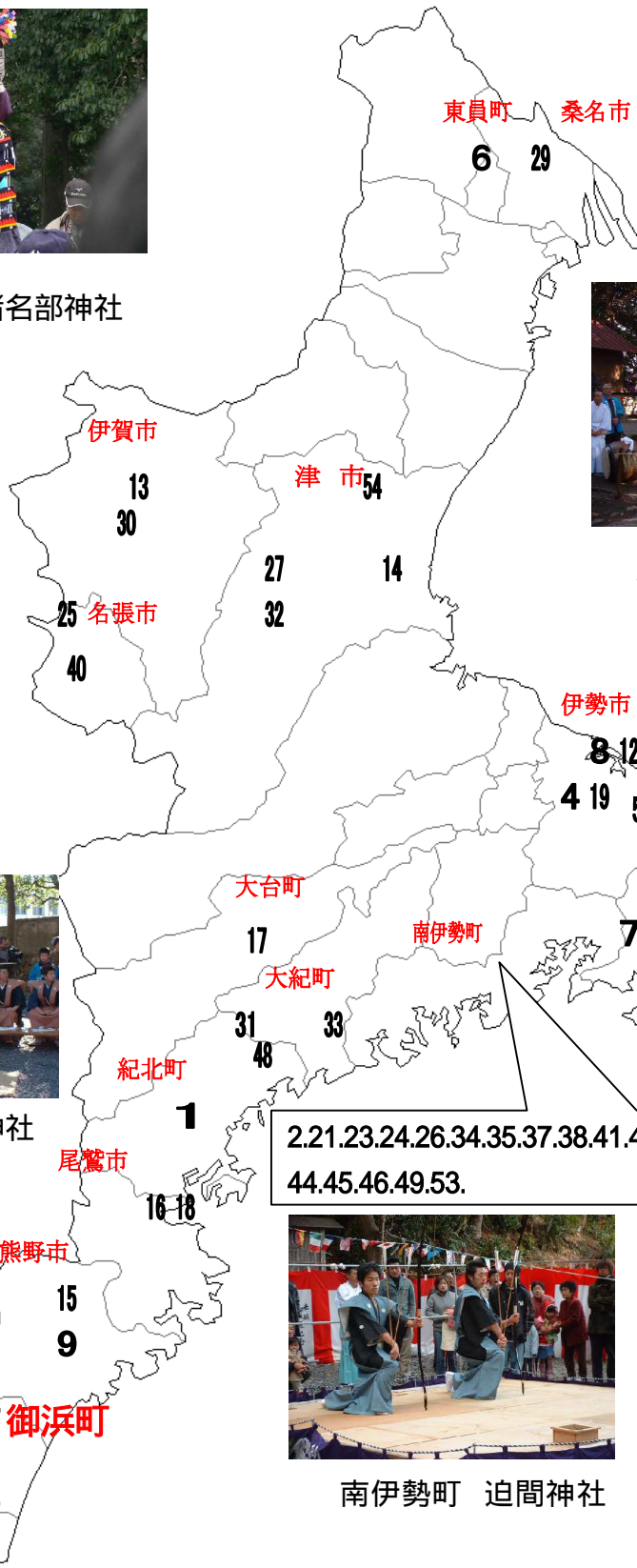
市町名	南伊勢町	志摩市	大紀町	紀北町	尾鷲市	熊野市	紀宝町	合計
数	16	3	1	3	2	2	3	54

伝統弓引き行事が行われている場所一覧図

番号は一覧表の数字



南伊勢町 猪名部神社



伊勢市 樟尾神社



紀北町 引本神社



鳥羽市 満留山神社



南伊勢町 迫間神社

2.21.23.24.26.34.35.37.38.41.43.
44.45.46.49.53.